令和５年度　第１回高知県スポーツ振興県民会議　議事要旨

日時：令和５年９月５日（火）13：30～15：30
場所：ザ クラウンパレス新阪急高知　４階　フローラ
出席：委員 24 名中 17 名が出席
議事：
（１）令和５年度スポーツ施策の進捗状況について
（２）来年度の強化ポイントについて

１　開会

２　知事挨拶

委員の方々には、大変ご多忙のところ委員への就任、本日の会議に出席していただき感謝。スポーツ関係の会議体を再編し、体制を新たにしたうえでの初回の会議になる。本県のスポーツ振興計画については、５ヵ年の計画で進めているところ。本年度は、昨年度、皆さまからいただいた意見をもとに策定した第３期高知県スポーツ推進計画の初年度に当たる。社会的には、来年のパリオリンピック・パラリンピックを控え、日本代表選手の活躍もあり、県民のスポーツに関する関心もひとしお高まっているタイミングと思う。本県も含めて先日開催された全国中学校体育大会をはじめ、プロ・アマチュアなどのトップチームによる合宿や、地域における様々なスポーツイベントの開催という形で、スポーツの振興に関する県民の関心の高まりが感じられる。繰り返しになるが、今年度は第３期スポーツ推進計画の初年度となる。例えば、学校における部活動の改革、あるいはアフターコロナ社会への対応など、スポーツを取り巻く環境は大きく変化をしているが、これをチャンスと捉え、中長期的な視野も踏まえ、スポーツの裾野の拡大、そして競技力の向上、さらにはスポーツを通じた活力ある地域の活性化、計画に定めた３本柱の取組を進めていくことが重要と考える。本日の会議では、第３期計画の初年度の取組状況を報告するとともに、来年度に向けたバージョンアップの作業を進めるうえで、来年度の強化ポイントについてご提案させていただき、ご意見を賜りたい。来年度の主な強化ポイントとしては、スポーツ参加の裾野の拡大の観点からは、地域における子どもや障害者のスポーツ環境づくり、また、競技力の向上という観点では、選手や指導者の県内企業等での受け入れ、さらには地域振興につなげる観点から、本県の強みを生かしたスポーツツーリズムをどのように盛んにさせるか等の観点について、皆さまからの忌憚のないご意見をいただきたい。

３　会長及び副会長の選任

高知県スポーツ振興県民会議条例第６条第１項に基づき、立候補及び推薦の有無を確認したがなかったため、事務局から提案を行うことに委員全員から異議がないことを確認し、次のとおり提案し、委員全員から異議がないことを確認した。

・会長　　青木　泰章
・副会長　井奥　和男、同　岡﨑　誠也、同　中平　雅彦

（青木会長挨拶）

○・コロナと共に日常生活を送る状態だが、以前と比べるとスポーツ活動は活発化している。今年に入り、ワールドベースボールクラシックでの日本の優勝は国民に大きな感動を与えた。また、女子サッカーワールドカップ、陸上、バスケットボールやバレーボールなど、様々な競技で世界を相手に勝利をすることで国民のスポーツへの関心を高めている。県内では四国で全国中学校体育大会が行われ、本県の次世代を担う選手の活躍がみられた。こうした選手達の活躍は、地域のスポーツを活発化することの後押しにもなっている。この会議で効果的な取組を議論し、スポーツやアスリートの価値を高めたい。

・先日、愛媛県の坊ちゃんスタジアムで東都大学野球リーグが地方開催された。観客動員数や話題性にはすぐには繋がらないようだが、地域のスポーツの活性化に資する取組の形だと感じた。また、こうした地方開催のイベントを受け入れる側の体制も含めて地域での取り組み方を検討することも重要だと考える。

・本日は今年度第１回目の会議でもあるので、活発な議論をお願いしたい。

◇承認事項

●承認事項３点について事務局から提案内容を説明

・１点目、高知県スポーツ振興県民会議条例第９条第１項に基づき、高知県スポーツ振興県民会議に地域スポーツ推進部会と競技力向上部会の設置を提案

・２点目、高知県スポーツ振興県民会議条例第９条第２項に基づき、各部会の委員候補者を別紙のとおり提案

・３点目、同条例施行規則第５条に基づき、会議録作成者としてスポーツ課岡山チーフを推薦事務局からの３点の提案について、会長から委員に賛否を確認し、承認を得た。

令和５年度スポーツ施策の進捗状況について

【事務局説明】

●資料１及び資料３を使用して説明

（刈谷委員）

○県民会議の組織体制について、以前の県民会議と現在の県民会議とでは、質の違いがあるのか。あるいは、以前と同じ形で進めていくのか、その点についてご教示いただきたい。

（事務局）

●昨年度まで、別途スポーツ推進審議会があり、審議会で議論するもののうち、高知県スポーツ推進計画に関することなどを中心に県民会議で議論いただいた。今年度から県民会議を審議会として位置付けて、スポーツ振興施策をより幅広い視点で議論していただく場と考えている。

（刈谷委員）
○高知県スポーツ推進審議会はクローズになったという理解でよいのでしょうか。

（事務局）
●今回、高知県スポーツ振興県民会議を審議会として位置付け、審議会の名称を高知県スポーツ推進審議会から高知県スポーツ振興県民会議に変更した。

（刈谷委員）
○高知県スポーツ推進審議会には歴史があり、関わった方々もたくさんいたと思う。その審議会を県民会議が兼ねることになったことは理解できた。ただ、前段でその説明があった方が良かったと個人的に感じた。

（濵田委員）
○部活動の地域連携や地域移行について具体的な例を教えて欲しい。

（事務局〈県教育委員会　保健体育課〉）
●今年の全国中学校体育大会から地域クラブの出場が認められるようになった。県内でも地区大会に５競技４チーム４２名が参加し、県総体、四国大会まで進んだチームがあった。今まで学校に部活動がなくて総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団で活動していた子ども達が、大会当日に引率だけお願いしていたものから、地域クラブ自体が参加ができるようになったため、大会へ地域クラブとして参加している形がみられる。具体的な市町村としては土佐清水市などから出てきている。

来年度の強化ポイントについて
【事務局説明】
●資料４を使用して説明

（寺村委員）
○・子どものスポーツ参加の拡大では、コロナも明けたが夏も熱く、子どもたちが外で遊べないといった状況でなかなかスポーツに出会う機会が少ない状況があるのではないかと思う。
・共働き家庭が多い中で、子どもたちに運動やスポーツをやらす時間を作ることが難しい。市町村で子どもと参加できるイベントが増えることはありがたいと思う。
・イベントは専門的なスポーツだけではなく、鬼ごっこやゲームなど取り組みやすいものから行うことがいいと思う。
・高知ファイティングドックスの試合なども親子で観戦しやすい時間に実施していただくことで観客数も増加すると思う。また、親子で参加する場合は駐車場が必要になると思うのでイベントなどを開催する場合は検討していただきたい。

（事務局）

●「参加しやすい」というのは大事と考えている。親子で参加できる機会の提供を増やしたいと考えている。

（青木会長）

〇もともと敷地が広いこともあると思うが、愛媛県の坊ちゃんスタジアムがある施設の駐車場は非常に広い印象がある。できるだけ、子ども達が運動やスポーツをする機会が増えることと、家族で一緒に運動ができる機会が広がればと思う。アメリカでは野球場で子どもが遊べるゾーンがある。皆が楽しめる場であることが重要と思う。

（大坪委員）

〇栄養指導の研修会を実施するが、なかなか指導者の方に来てもらえていない。せっかくいい結果が出ていることを発表している場なので、いつも言っているが、研修を設定する時期というのがすごく重要なのではないかと思っている。また、どこの競技団体にも医科学的なことを推進してくれるコーディネーターはいらっしゃるというが、どんな方が、どんなことをされているかという情報が入ってきていない。そういうところをもっと強化した方がよいと常々思っている。

（事務局）

●・研修の設定時期については、対象者をしっかりと捉えたうえで工夫をしたい。

・コーディネーターの研修は、まずは競技団体の窓口の方から進めているが、今後、スポーツ医科学に精通し、調整等ができるような研修内容にしていきたい。

（生島委員）

〇・評価の点について、質的な担保の確保が重要と考える。

・子どもの運動については、突き詰めると「遊び」だと思う。「遊び」を楽しみ、そこからスポーツへ誘導するということもスポーツ参加の拡大の一つの方法と思う。

（事務局）

●・事務局でも評価の質的な部分の分析については相談させていただきながら進めたい。

・子どもの「遊び」の部分については、子どもの環境づくりやマッチング事業の中で、ご相談させていただきながら進めたい。

（藤原委員）

〇・指導者の高齢化、人材不足が課題でありさまざまな取組をしているが、その中でも大学生や専門学校生への意識調査にて興味や関心があると出ており、この方たちをどのようにスポーツ指導者へとつなげていくかを考えることが重要と考える。

・もう一つは、高知県としてさまざまな取組がされているとは思うが、これらの取組が県民

やスポーツ関係者へどれだけ周知されているのか。これらの取組へ県民としては参加する、一歩踏み出すということが大切なので、知ってもらうことが必要と考える。

（事務局）

●若者の協力・参加が重要だと考えている。日常の活動については、場所の問題があるが、イベント等への参加について、県内の大学生も興味を示しているので、若者の参加を増やしていきたい。また、県内への周知は情報発信の方法論についても若者の声を取り入れて効果的なものにしたい。

（藤田委員）

○スポーツ参加の拡大というところで、高等学校では部活動における指導員の配置という事業を県にやっていただいており、特に中山間では生徒数や規模が少ない中で、子どもたちがやりたいと言う部活動をこのような形で支援していただけることはとても助かっている。

（田井委員）

○・障害者スポーツの 27 団体はどのような競技の団体なのか。また、障害者にこうした団体があることは周知されているのか。

・こうちスポーツ NAVI も LINE（ライン）を活用すれば閲覧者数の増加につながるのでは。

（事務局）

●・障害者スポーツの活動の場としては、高知市内に集中しているがサークルを中心に軟式野球、バレー、ソフトボールなどがあり、特別支援学校から派生した活動も行われている。

・情報発信については、障害者スポーツセンターを中心に行っているが、よりしっかりと情報が伝わるように改善したい。

（戸梶委員）

○第３期高知県スポーツ推進計画はスタートしたばかりであることは認識できる。その中で見直しの方向性の箇所については、主体的に課題を捉え、成果に対する時間軸などを設定し具体的な施策を明示していただきたい。そこから PDCA を回していかないと効果的な施策とならないと思われる。

（事務局）

●現段階では、来年度の方向性が抽象的となっており、次回の会議では具体的な施策を提示したい。資料１の「見直しの方向性」については、可能な限り具体的に記載したい。

（武市委員）

○・スポーツは哲学。「要（かなめ）」は何か。「遊び」から子どもが学ぶこともある。教育は「ティーチング」、福祉は「コーチング」、この二つがどこまで教育で定着していくか、こ

れが、「地域づくり」「街づくり」、大きくは「人づくり」の原点となると考える。大谷選手が、どういう形で物事に取り組んでいるのかも大きな視点となる。

・スポーツをするときは皆さん笑っている。今日の会議も笑ってできるとアイディアが出てくる。そんな時間をお願いしたい。そんな高知県になると、移住や外国人など多くの人が集まる高知県となる。「要（かなめ)」は、何かをしっかり決めて施策をつくっていただきたい。

（事務局）

●計画でもスポーツの楽しさを追求していくことが大事だとしている。厳しさもあるが、楽しさを感じることが重要と考えている。

（武市委員）

○「楽しむ」ことも重要であるが、その前に「どうしたら」楽しくなるのかを考えることができる子ども達をたくさんつくることができる環境づくりを生涯スポーツを支える総合型地域スポーツクラブとしてお願いしたい。

（常行委員）

○・スポーツ参加の拡大というところで、子どもと障害者に対象者を絞りこんで、非常にきめ細かいプログラムを少ない人員で数多く取り組んでおられ、ご尽力されていることが令和５年度の実績から伝わってくる。

・子どものスポーツと環境づくりで見えてきた課題として、体験会などできっかけづくりを行っているが、継続させる取組が少ないというところで、実際に体験会に参加していきなり継続というのはハードルが高い。体験会に参加する方は間違いなく関心を持っていると思うが、いかに行動変容が高まっていくかというプロセスの中で、もう少しきめ細かいプロモーションが大事。具体的に申し上げると、例えば体験会やイベントに参加した子どもたちや保護者の方々が「参加して楽しかった」で終わるのではなく、広報誌やＬＩＮＥのような、次に繋がるツールとプロモーションの検討がすすめば、継続には至らずとも、みるスポーツ、ささえるスポーツ、かかわるスポーツというところの視点で、スポーツ参加が拡大されるのではないかと思う。

・障害者スポーツにおいて、インクルーシブな視点を重視されていると思うが、当方が２年前に特別支援学校の保護者を対象としたニーズ調査を実施した際、自分の子どもが障害を持っていると健常者の子どもたちとスポーツの場にいきなり入って一緒に身体を動かすことに抵抗があるという意見がかなりの割合で見受けられた。

・ヤフーニュースで見ていると神奈川県でインクルーシブ公園というところで、車椅子に乗ったまま遊具で遊び、健常者の子どもたちと鬼ごっこをしたりだとか、スポーツという視点でなくとも何か身体を動かす楽しさを満喫できるような機会が非常に注目されているので、ハードルの高いスポーツの継続やインクルーシブな障害者スポーツというところではなく、もう少しレベルの低いところでそのようなアイディアが現在ご尽力いただいている

皆様方から、何かひとつでもふたつでも実践できれば、質的な評価というところで結果が出てくるのではないかと思う。

（事務局）

●・出会いの場が重要と考えている。また、その後にどうつなげるかという点についても、タイミング等も含めて有効に活用するということを念頭に設定していきたい。

・障害者スポーツのインクルーシブな取組についても、柔軟な発想をもって取り組んでいきたい。

（竹島委員）

○令和６年度の施策の方向性に、「有望な選手や指導者を県内企業等に受け入れる仕組みの構築」と記載していただいて嬉しく思う。３、４年前にこのことに触れると、企業側から高知県では難しいと言われた。教育委員会の方に教員として受け入れてはどうかと聞くと、そういう先生もいらっしゃると言われた。他県はクラブチームがあり、高知県の成年種別が国体予選会を勝ち抜くのは難しい。企業の受け入れは、大学を出て高知で競技を続けたい人にとってありがたいこと。どのような環境で受け入れていくかはこれからのこと。男性と女性の身体のつくりは違い、男性はある程度長く続けられるが、女性は頑張りたいと思ったときに企業のような受け入れ先があるとありがたいと思う。是非この施策を進めていただきたい。

（事務局）

●県内企業への受け入れについては、企業側の負担もあるので、企業側のご意見、選手側の声も聞きながら進め、マッチングの場の仕組み作りを他県の動向も参考しながら、来年度から動けるようにしたい。

（矢野委員）

○・競技力向上部会に所属、併せて、部活動の地域連携・地域移行の検討会議にも出席している中で、優秀な指導者の育成が急務である。それを踏まえて、高知大学のスポーツの指導者養成ということで、スポーツ・芸術文化共創専攻という新専攻を大学院に立ち上げ、来年度から開校の運び。地域にいる指導者がもう一度、大学院のカリキュラムの中で学び直しをし、自分でスキルアップするためのプログラムを用意している。DX の活用やデータサイエンスの学びも入っており、学び直した指導者を地域に戻すということを始める。強化・地域移行のための戦力として活用いただき、大学も連携していきたい。

・バスケットボールがパリオリンピックの出場権を獲得したが、トム・ホーマスという監督になって急激に変わっており、やはり指導者の存在は大きい。指導者のレベルアップ、育成について県全体をあげて取り組まなければならない。

（事務局）

●新専攻の設置について、スポーツ振興の視点から非常に心強く感じている。今後もご指導を

お願いしたい。

（前田委員）

○スポーツを通じた活力ある県づくり、スポーツツーリズムという視点が高知県の特徴。高知県の強みは何か、そのうえでスポーツの範囲をどこまでとするかを広く議論し、取組の優先順位を整理していくことが必要。例えば、スポーツ施設よりも自然環境の方が優位性を発揮できるとした場合、アクティビティをスポーツとして捉えるべきではないか。

（事務局）

●誘客の伸びしろはスポーツや地域、取組によっても異なるところ、本県の強みを活かしながら市町村と連携し県全体で取り組むことが大事。本県の何が強みかを踏まえ、次回の会議で具体的に提案したい

（刈谷委員）

○他の委員のご意見を伺い、アクティビティの伸びしろなど、どこまでを県民会議での議論の対象とするのか、私立学校の部活動などへの県行政の取組にも限界がある。そうしたことを踏まえ、スポーツをどのように捉えるのか、どのように構造化して県民会議で議論すれば県民に伝えられるのかということを感じた。

（事務局）

●いただいたご意見を参考にさせていただきたい。

（尾下委員）

○・資料１の競技力向上についてスポーツ科学センターの利用者数と課題についてお話させていただく。まず利用者数について。体力測定やトレーニングサポートなどの内容になりますが、センターの主力事業になるパフォーマンス向上支援事業の令和４年度の利用者数は一般利用が 498 人、競技団体と連携した強化策が 5357 人。合計で 5855 人となっています。前年度比で 3.59 倍となっている。競技団体の利用は進んでセンターの活動が軌道に乗ってきたものと思っている。

・全体に占める一般の利用の割合は、8.5%。児童生徒の利用は 77.7%となっている。

・管理運営に関しての課題は４点。１つ目は、県民の健康増進につながる一般利用は強化策と比べて少数にとどまっている。量販店のイベントなどで体力測定を行うなど SNS（フェイスブック・インスタグラム）での情報発信などを含め利用数増に努めている。

・次に、スポーツ科学センターを利用している競技団体を、推進計画の中で令和９年度までに 30 競技団体にするという目標に対して、さらに増やしていく必要がある。競技団体が強化策を活用する計画段階からサポートスタッフの協力もいただきサポートしている。国体への対応などスタッフが現場に出向いて指導に助言ができる場の設定にも取り組んでいる。次にＲ４に利用者数が増加したことについて継続して測定や助言を利用する団体や個人に

対して、日程調整や期間調整が困難なケースが出てきている。このため今年度トレーナーを１名追加して総務専任のスタッフを配置することで対応に当たっている。また、今後の利用者数の増を想定してスポーツ課とさらなる体制の強化について協議を行っている。

・最後に利用者の増加に伴って体力測定やトレーニングサポートを行う際のスペースや立地からくる振動や騒音が課題となっている、スポーツ科学センターは春野体育館の地下部分にあることから、体育館からの音や振動が下に抜けるため、具体的なアドバイス等を行うときの支障になってきている。体育館の会議室など空きスペースの活用などついてもスポーツ課と改善の協議を行うこととしている。

（事務局）

●利用者数を伸ばしながら、競技団体の活用の質を高めていきたいが、SSC 職員への負担も増えるため、それを支える体制を充実させたい。

（大坪委員）

○女性のほうが食事に対する捉え方か変わってきている。これからスポーツ選手としてだけではなく『女性として』という観点から指導できたらと考えている。団体への指導も工夫して行っているが、個人指導をすると目標を持って次につながることが分かってきた。細かい指導が重要である。現在、稼働しているスポーツ栄養士、管理栄養士が少ないので、同栄養士を担保しようと考えている。

（事務局）

●栄養の指導は、個人の指導が重要になってくる。高校生等については、指導をする指導者の理解も重要であるため、そうした点をサポートしていける取組を行いたい。

（井奥委員）

○障害者のスポーツ参加、スポーツに親しむ環境づくりについて各方面から様々なご意見をいただいているところである。我々県社協は県立障害者スポーツセンター、ふくし交流プラザの指定管理を受託している。昨今のコロナ化の影響による利用者動向について報告すると、令和２年度利用者数はコロナ化以前の５～６割であったが、ふくし交流プラザにおいてはリモート技術の活用等により徐々に回復し、現在は利用者日数が令和元年度を上回るような状況である。しかしながら障害者スポーツセンターにおいては、現状７～８割の利用者数に留まっている。これについては、昨年の利用者集計システムの改修を活かすなどして原因を分析する必要があると考えている。また、デジタルによる情報発信についても、現状 HP で発信するのみであるが、SNS 等の活用により、利用者にとってより身近な情報に接することができるようにデジタル技術を活用するなどして、利用者増へつながる情報発信にも取り組んでいただきたい。

（事務局）

●障害者スポーツセンターと共に分析をしながら、今できる取組と、これからの取組について議論して進めていきたい。引き続き宜しくお願いしたい。

（青木会長）

○デジタル化によって物事が数値化され自分の動きや効果が見える化され、関心を持ち、広がりを生み出すのではないかと考えている。スポーツは楽しむだけでも良いし、障害者と共にスポーツを行い共生社会をつくる。また、世界の場での競争のなかで勝つために努力する。「負け」を経験する中で、努力を継続する大切さと、困難性に打ち勝つ方法を身につけることができ、相手の強さをリスペクトする力を身につけることができると思う。そうしたことが見ている者を感動させることに繋がる。一朝一夕にはできないが、地域の活性化、スポーツや地域の価値を生み出すことにつながるため､継続して取り組んで行くことが重要と思う。その意味で、本日の委員の方々の意見は貴重なものであると思う。ご協力に対し感謝。

5　その他

（濵田知事）

○・本日は長時間にわたり、各分野からの熱心なご意見をいただき誠に感謝。冒頭、刈谷先生からご指摘のあった組織再編について簡単に説明させていただきたい。昨年度まで、この県民会議は年３回程度開催し、県のスポーツ施策の PDCA を管理し、エンジン役を担っていた。法令で別途条例で定める有識者組織が必要であったため別に審議会を設けさせていただいていた。ただ、この審議会は年に１回の開催で、県民会議で議論した結果をご報告させていただいていたのが実体であったため、この際、この組織を一本化して、当県民会議と言えば名実ともに本県のスポーツ振興に関する意思決定会議ということで、今まで以上にご指導ご鞭撻をいただけるようにというつもりであるのでどうか宜しくお願いしたい。

・また、本日は事務局より提案した来年度の強化の方向性についてご意見を賜り感謝。特にスポーツ参加の拡大については、各委員の皆さまから子どもを考えた場合、「スポーツ」と肩肘張らずに「体をうごかす」という次元から、かつ、継続しやすいという視点からの仕掛けや工夫が必要であるという意見や、参加の機会があってもそれが十分周知されないと意味がないというご意見もいただいた。こうした指摘を踏まえ具体策を練っていきたい。競技力の向上については、選手や指導者を企業に雇用をいただく仕組み作りへの期待、指導者の養成・確保の必要性についてのご意見、スポーツツーリズムについては、高知の強みを生かした形での具体策の展開についてのご意見をいただいた。次回の会議においては、本日いただいた様々なご意見を踏まえ、具体的に来年度どういった事業を展望しながら実施施策をどう強化するかについてご提案し、さらにご意見をいただきたいので、引き続き宜しくお願いしたい。本日は誠に感謝。

以上

署名_____